



「言葉と人権」～人権問題をともに考えよう～

12月4日から10日は、人権週間です。「人権」とは、一人ひとりが生まれたときからもっている「自分らしく生きる権利」のことです。つまりは、みんな生まれたときから「自分らしく生きていい」とされているのです。みんながみんな違うように、全部が同じ人なんて誰もいません。一人ひとりの違いを認めたり、自分や友達のよいところを見つけたりして、それぞれが大切な存在であることを知る、大切な一週間です。そこで、詩人、金子みすゞさんの詩「こだまでしょうか」を紹介します。

「遊ぼう」というと「遊ぼう」という。
「馬鹿」というと「馬鹿」という。
「もう遊ばない」というと「遊ばない」という。
そうして、あとでさみしくなつて
「ごめんね」というと「ごめんね」という。
こだまでしょうか、いいえ、誰でも。

皆さんは、この詩を読んで、何を感じましたか。

たった一言で、人は傷つく。たった一言で、人は微笑む。自分がやさしく話しかければ、きっと相手も穏やかに答えを返してくれる。言葉は、人から人へこだまします。

私は、この詩を読んで、人と人のやさしい会話のきっかけは、言われて嬉しい言葉「ありがとう」と相手との距離感が大切だと思っています。

「ありがとう」という言葉には不思議な力があります。例えば、エレベーターで降りるとき、私は「OPEN」のボタンを押し続けて、最後の人が降りるまで待ってから降りることがあります。そうすると、ほとんどの人が「ありがとう」と言って、笑顔で微笑みかけてくれます。

ところが、「すみません」と下を向きながら、視線を合わせず出て行く人もいます。「ありがとう」も「すみません」も同じ5文字なのですが、受ける印象はまったく異なります。「すみません」と言われると、こちらもどことなく気まずい思いをするのですが、「ありがとう」と言われると、うれしい気持ちになります。「ありがとう」は、言われた方も言った本人も、何とも言えない清々しさを感じます。まわりも、人が素直に感謝の言葉を伝えている姿を見ると、心を打たれます。

皆さんが、もし日常生活において、「すみません」という言葉を多用しているならば、その「すみません」という5文字を、すべて「ありがとう」に変えてみてはどうでしょうか。「すみません」という言葉には、相手を元気づけるパワーはありません。「ありがとう」には相手の心だけでなく、自分の心も豊かにする力をもっていると思います。

次に、相手との距離感です。よく「近すぎず、遠すぎず」と言われます。これが「近すぎる、遠すぎる」状態になったら、どう感じるのでしょうか。私が中学生のとき、親が突然、無断で自分の部屋に入ってくるがありました。たとえ家族であっても、嫌でした。これが、家族ではない他人だったらどうでしょう。まだ相手が自分を受け入れていない状態で、パーソナルスペースに踏み込んでしまうと、どれだけコミュニケーション能力に長けた人であっても、相手に拒否されてしまいます。だから、まず相手との「距離感のバランス」を意識することが大切です。「近すぎず、遠すぎず」という距離感のバランスは、一つのものさしではかることはできませんが、「ファイナル3フィート」という言葉があります。約90cm、手を伸ばして届くか届かないかの距離感を大切にと言われます。「ありがとう」という言葉、相手との距離感を、この機会に見つめ直してみてください。

最後に、人権週間になると、よく目にする広告があります。
「今日も、人が苦しんでいる。人が苦しめている。」という広告です。
そこには、こんな言葉が綴られています。

朝、バスに乗るとき、車イスの人が私の前に並んでいました。
バスに乗るまでに時間がかかったので、イライラして車イスの人をにらみました。
学校では、最近先生から気に入られている子がむかつくので、
今日もみんなで無視をしました。
そして塾の帰り、外国人が私の前を歩いていました。
何か怖いので違う道を通って帰りました。
私は、今日もたくさん、私と同じ人間を傷つけました。
人権問題を、ともに考えよう。

今、私たちの生活の中で、イライラすること、周りの目が怖いと感じること、逃げ出したいと思うことがあると思います。これは、人が苦しんでいること、人が苦しめていることです。

社会は、ものすごいスピードで多くのことを私たちに求めてきます。できていないことがあると、「これができていない、あれができていない、ああしろ、こうしろ」と、冷たい言葉を浴びせてきます。

辛いですね。苦しいですね。もうやめたいと思ってしまいますね。

相手のことをよく知らないまま、なんとなく気に入らなかつたり、嫌なことがあつたりすると、相手を排除してしまうこともあります。度が過ぎると、相手を傷つける「いじめ」が起きています。半田中学校でも、これまでいじめがありました。いじめにあった人やご家族は、どれだけ心を痛めたことでしょうか。

いじめは犯罪です。いじめた人の中には、「いじめられる側にも原因がある」と言う人がいます。私は、いじめられる側には原因がないと思っています。いじめられる側にも原因があると言う人は、自分がやっていることを正当化するための言い訳だと思っています。また、同じクラスの人がいじめられているのに、いじめられる側にも原因があるからだ、見て見ぬふりをしている人もいます。それは、勇気のない人の言い訳だと思っています。いじめは、いじている人が100%悪いです。

人を傷つけることは、やめましょう。悪口も「言葉の暴力」です。

金子みすゞさんの詩、「こだまでしょうか」を思い返してみてください。

言葉はこだま。言葉は言霊。言葉はもう一人の自分です。人権というたった2文字の意味を正しく理解し、常に意識して行動できる人になるためには、自分の言葉について考えることが大事です。どんな言葉を知っているか、どんな言葉を使うかで、「考え方」も「かかわり方」も変わってきます。私たち大人も含めて、言葉に関する感性を磨き、すてきな言葉があふれる半田中学校にしていきたいです。

そして、今、辛い思いを抱えている人へ、あなたは認められています。あなたは愛されています。あなたには価値があります。あなたは大切な存在です。きっと動き出せる日がきます。

皆さん、「やめて」と言える強い心を持ちましょう。「やめよう」と言える勇気を持ちましょう。

相田みつをさんの詩「セトモノ」を読むと、人と人の関わりを考えさせられます。

セトモノとセトモノと ぶつかりっこするとすぐこわれちゃう
どっちかやわらかければ だいじょうぶ
やわらかいところを持ちましょう
そういうわたしはいつもセトモノ

